



CAT2020：目録所在情報システムのこれから

# CAT2020の変更点について

これからの学術情報システム構築検討委員会  
システムワークフロー検討作業部会  
（前NACSIS-CAT検討作業部会主査）

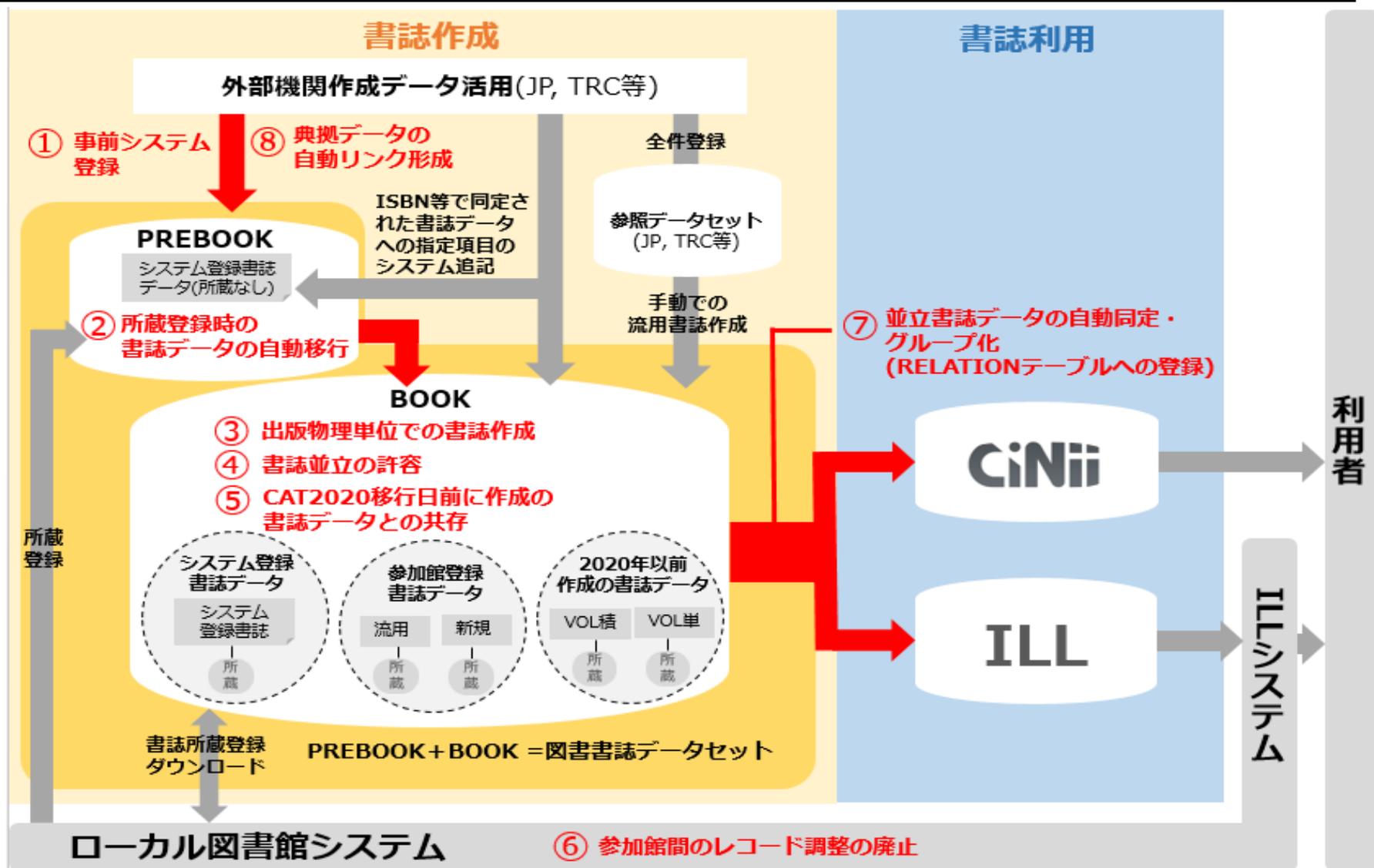
東北大学附属図書館情報管理課 佐藤 初美

# 1. 検討の進捗と公開資料

	事	項
2012	これからの学術情報システム構築検討委員会	設置
2015/5	NACSIS-CAT検討作業部会	設置
2015/10	NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（基本方針案の要点）	
2016/3	NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（基本方針案）	意見募集
2017/2	NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（実施方針）	意見交換会
2018/1	NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（実施方針）からの変更について	
2018/10	NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（最終まとめ）	

その後「最終まとめ」に合わせたシステム改修・マニュアル改訂作業など

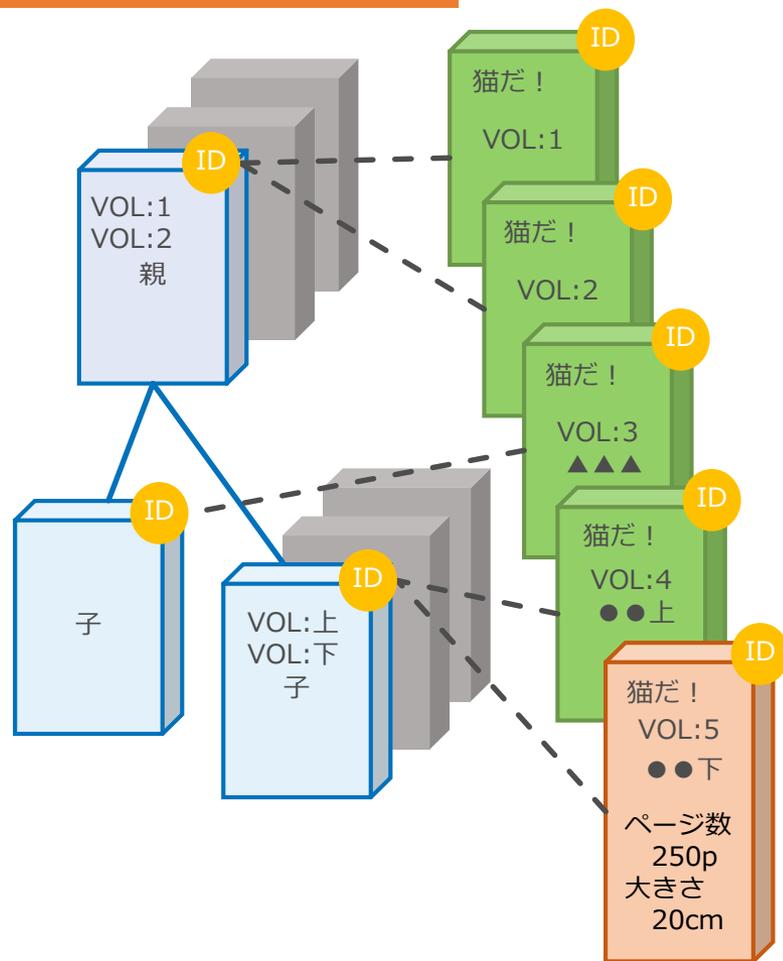
## 2. CAT2020での主な変更点：8つのポイント（本日はさらに絞ったポイントのみ）



出典：NACSIS-CAT/ILLの再構築について（最終まとめ）

## 2. CAT2020での主な変更点 ①書誌作成単位の変更

### 書誌作成単位の変更



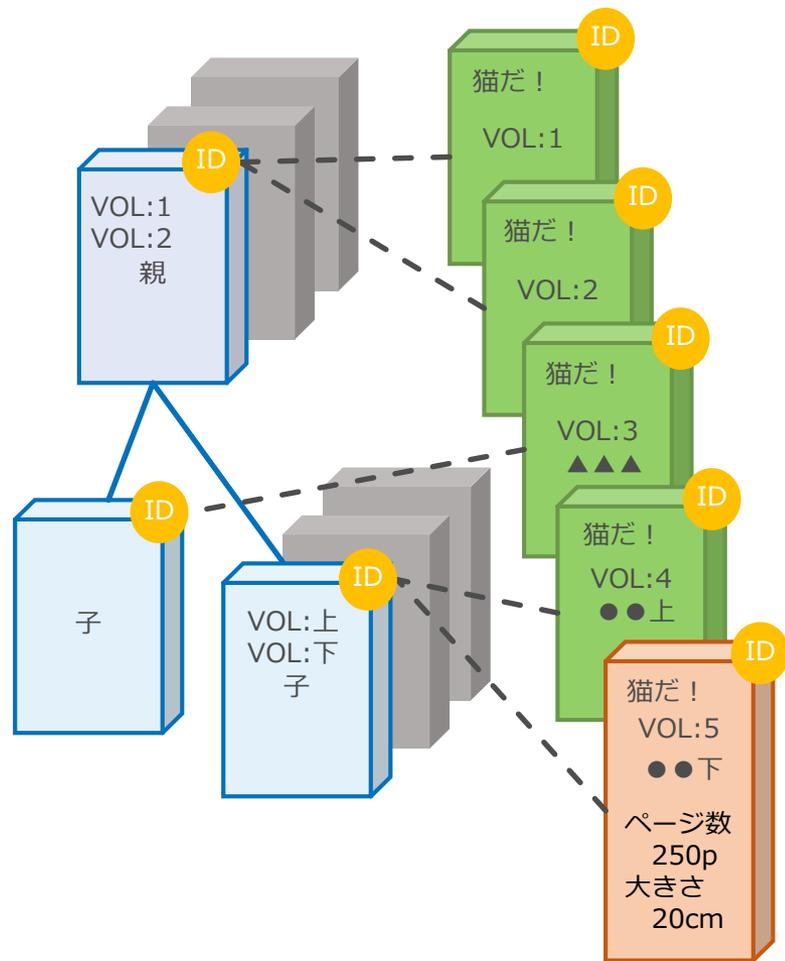
### 目的

- ID対IDによる外部データとの相互運用性の強化
- 現行方式では記述できなかった出版物理単位の情報に記述することによる書誌のリッチ化
- ISBN等を活用した所蔵データの自動登録推進
- NACSIS-CAT特有のルールの見直しによる業務負担軽減

→CAT2020以降は1冊に対して1データを作成

## 2. CAT2020での主な変更点 ②並立書誌

### 書誌並立の許容



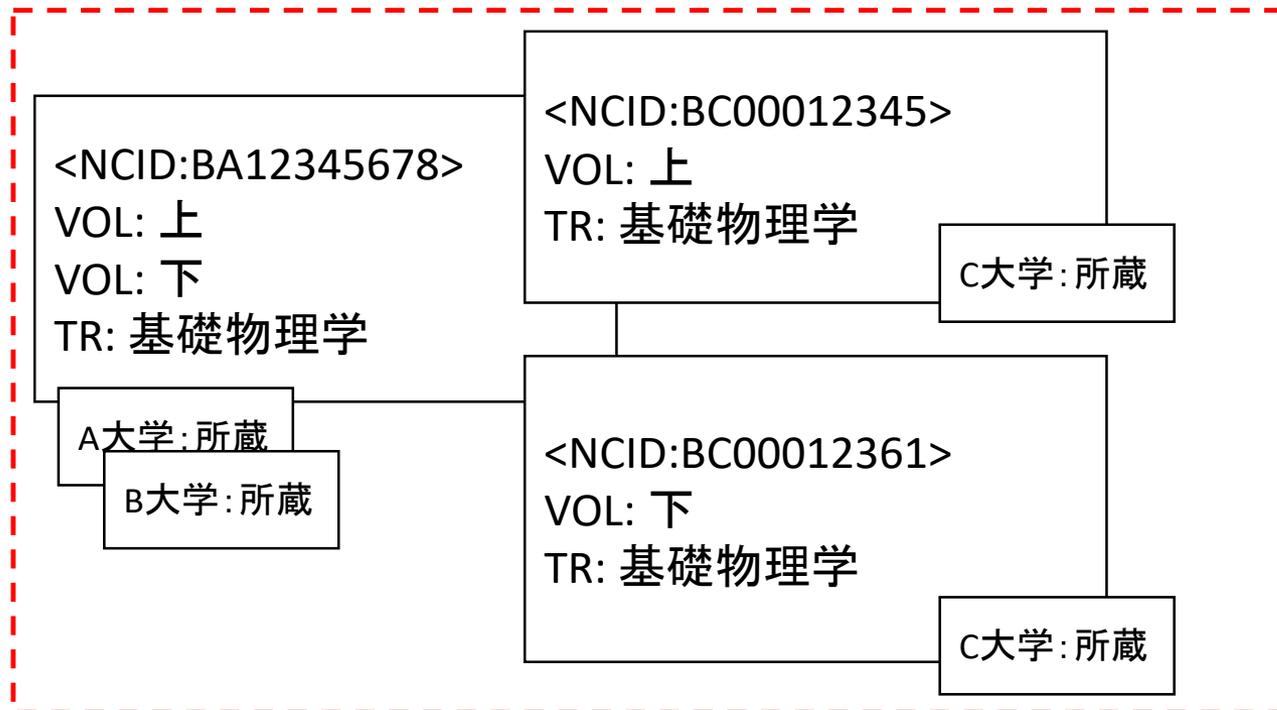
### 理由

- CAT2020以前に作成した書誌データは遡及的に分割しない  
→できない
- 現行のルールによる書誌データと、新ルールによる書誌データが複数存在する（してしまう）
- 参加館同士の記述内容に関する問い合わせ業務の軽減の必要性
- 重複の可能性のある書誌をどこまで厳密に調整するか（費用対コスト）

→CAT2020以降は双方のデータが混在

## 2. CAT2020での主な変更点 ③RELATION

### 並立書誌のグループ化



### RELATION

ILL利用時に、並立書誌にリンクしている所蔵データを参照する

### 並立書誌データ

同一資料に対する複数書誌データ。由来の相違のほか、現行基準において作成館に問い合わせを必要とする書誌事項の相違などにより存在が許容される。

### 重複書誌データ

書誌の同定に必要な項目が全く同一の書誌データ。統合対象となる。

## 2. CAT2020での主な変更点 ④自動リンク

### 典拠データの一部自動リンク

【JPMARC】

VOL : ISBN : 9784103XXXXXX

TR : ギリシア人の物語 / 塩野七生著

AL:塩野, 七生 ← NDL: 00072723

【VIAF】

塩野, 七生, 1937-

VIAF ID: 30974387 (個人)

NDL|00072723

NII|DA00384773

照合

PREBOOK<BC19997755>

VOL : ISBN : 9784103XXXXXX

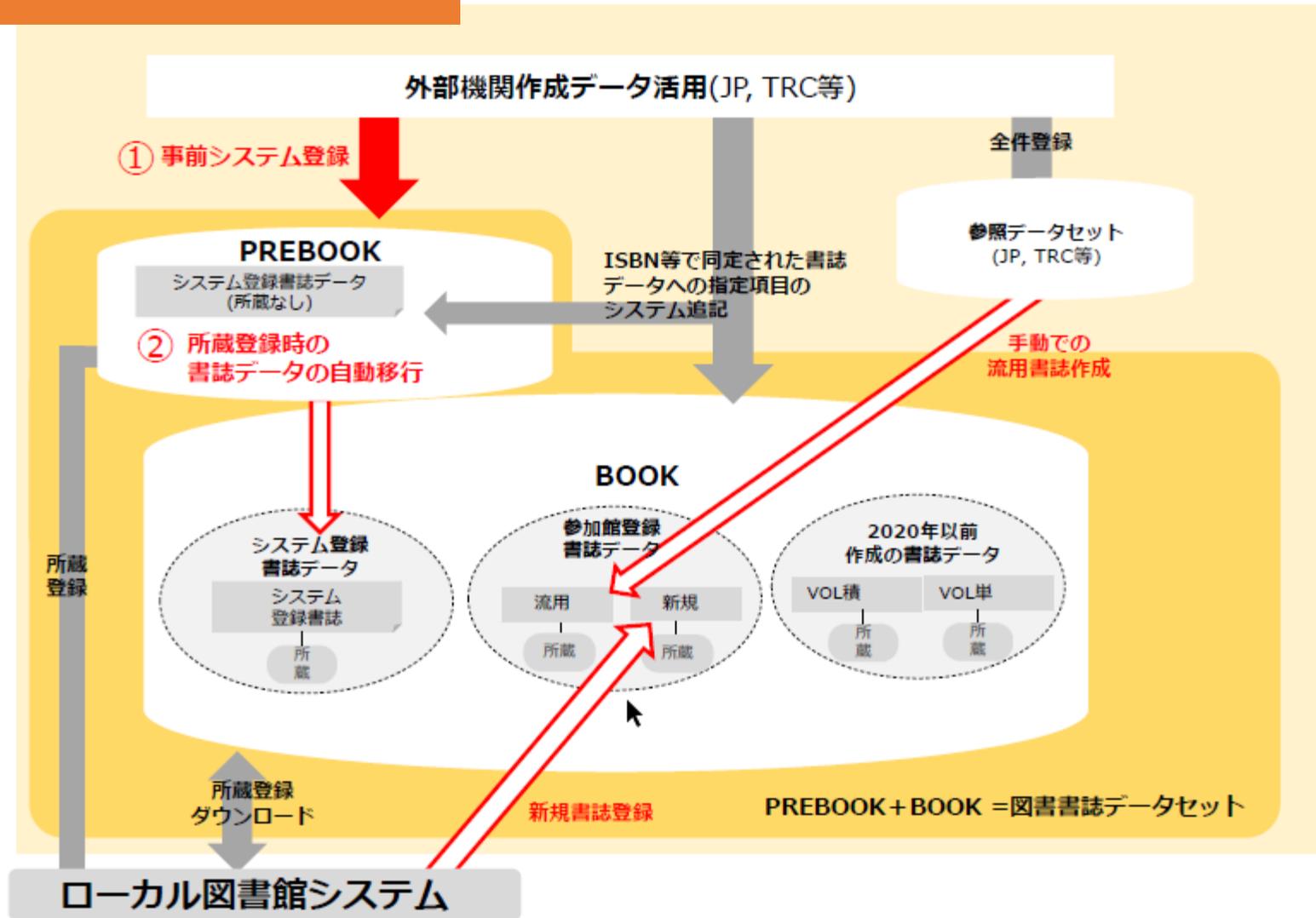
TR : ギリシア人の物語 / 塩野七生著

AL:塩野, 七生(1937-) || シオノ, ナナミ <DA00384773>

◆CAT以外のデータベース等を活かしながら人手による作業を減らす

## 2. CAT2020での主な変更点 ⑤事前登録

### 事前システム登録



## 2. CAT2020での主な変更点 ⑥目録規則

### 目録規則の扱い

#### 現状

- 和書： 日本目録規則1987年版改訂版
- 洋書： 英米目録規則第2版(1988年改訂、1993年修正)

TR: Gardner and Sutherland's chromosome abnormalities and genetic counseling / R. J. McKinlay Gardner, Adjunct Professor, Clinical Genetics Group,

University of Otago, Dunedin, New Zealand  
David J. Amor, Lorenzo and Pamela Galli Chair, University of Melbourne, Victorian Clinical Genetics Service, Murdoch Children's Research Institute, Royal Children's Hospital, Melbourne, Australia  
ED: Fifth edition

PUB: Oxford ; New York : Oxford University Press  
[2018]

PHYS: xii, 714 pages : illustrations (some color) ; 27 cm

RDAに基づいた参照ファイルの記述は、CATが準拠するAACR2に修正する必要はない

TR: Gardner and Sutherland's chromosome abnormalities and genetic counseling / R.J. McKinlay Gardner, David J. Amor

ED: 5th ed

PUB: New York : Oxford University Press ,  
c2018

PHYS: xii, 714 p. : ill. ; 27 cm

### 3. 今後について

#### まずは2020年に向けて

- ◆CAT2020運用開始日を含む今後の予定について >このあと説明

#### 次に2022年に向けて

- ◆「これからの学術情報システムの在り方について(2019)」を公開済(2019.2.15)  
>詳細はこのあと説明

## 4. NACSIS-CATの課題 ①周囲の状況から

### 電子リソース共有作業部会での検討から

- ◆ERDB-JPを通じた国内刊行の電子リソースのデータ共有
- ◆電子リソースを扱える図書館システムの検証・海外運用例調査
- ◆複数の大学での商用システム共同運用の可能性  
→当初は検討対象でなかった「紙」の資料も含めた検討へ

### 国立国会図書館の動向から

- ◆2021年4月のシステムリニューアルまでに実現すべきことをまとめた3か年計画「国立国会図書館書誌データ作成・提供2018-2020」の柱の一つが「新しい目録規則への対応」
- ◆2020年1月には、「適用細則」の大部分を公開し、2021年1月に適用開始予定
- ◆NCR2018適用の前提
  - \* 書誌: 物理単位で作成
  - \* データフォーマット: MARC21
  - \* 記述規則: ISBD(区切り記号使用)

### 「これから委」としての検討課題(2019年度～)

- ◆大学図書館としての運営コミュニティ →今後の方向性を考えるのは誰か？
- ◆目録データ作成・ILLともに海外関係機関との連携も必要  
→まずは国内関係機関と協働できる可能性？
- ◆各機関の図書館システムとの関係(業務の流れの再考)
- ◆メタデータの先にあるべきデジタルアーカイブ



作業部会を再編して検討を加速

利用者と資料を最短で結びつけるために